

## なにやってんだよ!

## ネットワーク管理者・池田の 第8回 他人に同報するときは「Bcc」を使い!

最近、インターネットの上でも商品広告のダイレクトメールがはじまっているが、個人においても同じメッセージを複数人に送りたい場合がある。たとえば、友達や会員へのお知らせや引越案内(メールアドレスとホントの引っ越し)、企業の場合にはマスメディアへのプレスリリースなどいくらでもある。

やはりコンピュータに頼ったほうがラクで正確

ご案内の文面も書き終え、送付したいメールアドレス一覧も用意できた。さて、実際に送るわけだが、どうやって送ればいいのか? いつもなら、1人が2人に宛ててメールを送るだけなので、メールソフトウェアのアドレス帳から選ぶだけで、この作業を100回繰り返せば、目的とする100人に送れるが、手でやると抜けや重複などの誤りが出て、100人に確実に送ることはかなり難しい。メール100人前のトラフィックが発生してアクセス料金が増えるという欠点もある。

もちろん、宛先にズラズラ100人分ならべれば、手間もいらす間違いも起こらない。しかし1行が長いメールが送れないのと同じような理由で、宛先(To:フィールド)があまりにも長いとやはりメールシステムに問題が起り、メールが届かないこともある。

また、宛先の全員がおたがいに知り合いならよいが、受け取ったメールに書かれている宛先から、自分以外の誰に宛てたのかが分かってしまい、プライバシーの問題にもなり得る。私自身、このようなメールをアンケートなどでもらうことがあるが、正直言ってよい気分ではない。便利になったとはいえ、そこはやはり人間同士のやりとりなので、守るべき礼儀はある。

いちいちメーリングリストを作るわけにもいかない

インターネット上で、特定多数に同じメールを送付する機能は古くから利用されている。そう、お馴染みのメーリングリストだ。一時的にメーリングリストを作成することは、技術的には十分可能である。しかし、管理者ならメーリングリストくらい簡単に作成できるが、ユーザーの場合にはそう簡単なことではない。メーリングリストサービスを提供しているプロバイダーでも、一回限りのサービスを提供しているプロバイダーは聞いたこともない。

- 【脚注】①Bcc: Blind Carbon Copy(ブラインドカーボンコピー)の略で、メールで送り先を指定する項目の一つ。たとえば、Bccの欄に相手の上司のアドレスを書いておくと、Toで指定した相手は、上司にもメールのコピーが届いているのを察知することはできない。  
②Cc: Carbon Copy(カーボンコピー)の略。Bccと同じくTo以外でメールの送り先を指定する項目。Bccと違い、受け取った相手はこのメールを他の誰が受け取ったのかが分かる。カーボンコピーとしては、こちらが基本型。  
③postmaster: メールサーバーの管理者。

ユーザーだけでできる現実的な方法

100本のメールを出さずに、しかもマナーに反しない方法としては、Bcc<sup>①</sup>という機能がある。Cc<sup>②</sup>は受け取った側でもメールヘッダーから自分以外の誰にCcされているか分かるが、BccならメールのヘッダーにはBccのフィールドが残らないため自分以外の誰に送ったのかは分からない。つまり、プライバシーの問題も避けてとれる。

「To」の項目には何も書かない

それでは、Toには何を指定するのだろうか? 受け取った側から見ると、あずかり知らないメールが届き、しかも「To」や「Cc」に自分のメールアドレスがない場合、「誤配送が起きているのではないか?」と思い、次には「もしかしたら自分が出したメールもアカの他人のところに行ってしまうのではないだろうか...」といった心配をし、管理者に問い合わせたくなる。もちろん問い合わせを受けたらメールシステムのログを調査し、「何時何分何秒に誰々からあなたへメールが行ってます」と事実をそのまま答えるので無意味だ。

つまり、あずかり知らないメールというのがクセ者なので、そういったメールを出さないよう、メール本文の冒頭に「会の皆様へ」と宛先を明記しておけば、受け取った相手が無用な心配をせずに済む。また、このような同報メールの場合には、本来指定しなければならぬToに何も指定しなければ「To: (Recipient list suppressed)」などと適当なものをつけてくれるメールソフトウェアもある。

もちろん、Toを指定しなければならないソフトウェアもあり、そこに「To: (Recipient list suppressed)」などと無理やり書いて送出することも不可能ではない。確かにこの方法で目的とする特定多数の全員にメールを送ることはできるが、自分にエラーメールが届てくるのがほとんどだ。このようなエラーメールは、管理者である「postmaster」<sup>③</sup>にも行くように設定されているサイトが多く、結局のところpostmasterにも負担がかかるので、できれば事前にpostmasterに相談しておくべきだろう。



トラフィックとプライバシーの  
2つの問題があるので、  
たあつ!一斉同報するときは  
Bccを使おう!





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)